

はくぶつかんネット



第74号

令和4年7月～11月号
発行：宜野湾市立博物館



第30回 ぎのわんの文化財図画作品展

受賞おめでとうございます！

秋といえば、「食欲の秋」「読書の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」など様々ですが、皆さまは新型コロナウイルスが少しずつ落ち着き始めた今年は、どのような秋をお過ごしでしょうか。

市立博物館では、10月1日（土）に「第30回 ぎのわんの文化財図画作品展」の表彰式を開催しました。「ぎのわんの文化財図画作品展」は、市内の文化財への理解と愛郷心を育てることを目的に、小中学生が夏休みに描いた市内の文化財の絵を展示するもので、今年度で30回目を迎えます。今回は133点の作品が集まり、応募作品全てを展示しました。表彰式では、教育長賞～銅賞を受賞した児童生徒のみなさんやご家族にご参加いただき、教育長から受賞者に表彰状と副賞が授与されました。展示会は期間中、511人の方に見ていただきました。改めて、作品を応募してくださった児童生徒のみなさん、審査員の先生方にお礼申し上げます。

表彰式の様子



教育長から受賞者へ賞状と副賞が授与されました！



次のページでは教育長賞を受賞した作品を紹介するよ♪

✿ 教育長賞受賞作品 ✿



【中学生の部】
小野 真理子（沖縄カトリック中学校3年）



【小学校高学年の部】
上間 はな（はごろも小学校6年）



【小学校中学年の部】
田中 なつめ（普天間小学校3年）

審査員講評（一部抜粋）

■小学校中学年（3・4年生）の部

中学年の部では、シーサーやエイサーなどの伝統芸能の作品が多く、どの作品もいきいきとダイナミックな構図で本物の美しい部分・迫力を捉えていました。ぼかし等を使った表現技法のほかにも、鉛筆や毛糸や和紙、ちぎり絵など、題材に合わせて工夫をしている面白い作品が多かったです。

■小学校高学年（5・6年生）の部

高学年の部では、風景画がほとんどで、建物の細かい部分を筆の大小を上手に使って表現するなど、丁寧な作品が多く、自分たちが暮らしている地域の文化財に対する思いが伝わってくるようでした。植物や石垣、石畳やガーは、クレヨンや絵の具で思い切りの良いほど色を加えている部分もあり、奥行きや厳かさ感じました。

■中学生の部

中学生の部では、例年より作品数は少なかったのですが、全体のレベルは高いと感じました。どれも隅々まで細かく描写された作品が多く、画面におさめる構図、風景で多い遠近を感じるような彩色の工夫、石や岩の表現や細部の描き込みを丁寧にしていたと感じ、文化財に対して、関心が高く自分が興味のあるものを描くことを楽しんでいる作品が多いと感じました。

展示見学の様子



今年度も作品を応募してくださり、ありがとうございます！
来年度もたくさんの応募をお待ちしております！





慰霊の日写真パネル展 「沖縄戦の中の宜野湾」 ご来場ありがとうございました



今年も、慰霊の日写真パネル展「沖縄戦の中の宜野湾」を6/15（水）～7/10（日）までの会期23日間で開催し、1,177人の皆さまにご来場いただき、ご好評のうち終了いたしました。本パネル展は、時間の経過とともに戦争体験者が減少していくなかで、戦争の記憶を後世へと繋いでいくための取り組みとして、毎年6/23の慰霊の日に合わせて開催しています。

戦前はのどかな農村であり中頭地域の中心であった宜野湾が、地上戦を経て基地の街へと変わっていく様子を、写真パネルを中心に住民の証言や映像資料など250点を用いて紹介しました。

また、今年は【沖縄戦と子どもたち】のセクションを設けて、子どもたちが地上戦の最中に戦場をさまよう様子や、救護所で手術やけがの治療を受ける様子。戦後の収容所での生活や、孤児院へ送られた子どもたちの様子など、戦中～戦後にかけて子どもたちが置かれていた過酷で悲惨な状況をご紹介します。

皆さまからの感想です

- 亡くなった子どもたちのようにならない。二度と戦争を繰り返さないと。思った。
- 数枚の写真以外は初めて見るものばかりで、毎年来て沖縄戦（せめて地元のこと）を知る・確かめる必要があると思った。
- 戦争のむごさを痛いほど感じた。犠牲になられた方のご冥福を祈ります。
- 戦後の子どもたちを映した写真が衝撃的でした。
- ここまで生々しい写真が残って、そして集められた事に驚いた。恐らく県外の人がある沖縄戦は、この何分の一かと思う。
- 戦争がここまでひどい事、子どもが犠牲になり悲しくなりました。平和な国がずっと続いて欲しい。



Welcome

宜野湾市制施行60周年・本土復帰50記念企画展Ⅱ

めでたい! 島のわん60さい!! ～あれこれあっ展～

入場無料

2022年は宜野湾市が誕生して、7月1日で60年となり、沖縄の本土復帰から50年の節目となります。そこで、市昇格の様子や出来事、人々や街の様子など、1960～70年代を中心に、実物資料や写真資料にてご紹介していますので、ぜひ、ご覧ください♪

期 間 ◆ 10月26日（水）～12月18日（日）
9:00～17:00（入館は16:30まで）
休館日 ◆ 毎週火曜日・祝日 ※11/3（文化の日）は開館



市昇格パレード（一九六二年）

宜野湾市制施行60周年・本土復帰50周年記念企画展 I

山田真山展

—アトリエに残された真山の足跡—

開催期間：2022(令和4)年7月27日(水)～9月25日(日)

共催：公益財団法人 沖縄協会

終了
しました!



今年、宜野湾市の市制施行60周年、そして沖縄が本土復帰してから50周年の節目の年です。そこで、記念事業の第1弾として「山田真山展—アトリエに残された真山の足跡—」を開催しました!

本展示会では、真山さんと平和祈念像を中心に、祈念像原型の立地する普天間の歴史や、普天間のアトリエ跡に残された資料などを展示し、真山さんの足跡を紹介しました。また、祈念像制作のきっかけとなった沖縄戦についても触れ、真山さんの平和への想いを感じることでできる展示を目指しました。



オープニングセレモニー



昨年に引き続き、コロナ禍の開催ではありましたが、7月27日(水)から9月25日(日)までの約2か月の会期中に、1,268名の方が足を運んでくださり、多くの皆様にご観覧いただけたことを嬉しく思います。ご来館いただいた皆さま、ありがとうございました!

開催初日の7月27日(水)には、ささやかながらオープニングセレモニーも行いました♪セレモニーの様子は、Youtubeでご覧いただけます!



ご共催いただいた公益財団法人沖縄協会様や、個人の方々から、ブロンズ像や日本画などの作品もお借りして展示しました! その他にも、琉球新報新聞博物館様にも貴重な資料をご提供いただきました♪展示にご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました!





初公開！アトリエに残されていた資料



これまで祈念像原型を含め、アトリエ内の資料は公益財団法人沖縄協会様が管理していましたが、今年2月に宜野湾市に贈与されました。本企画展は、そうしたアトリエ内資料の初お披露目会も兼ねていました♪



ご観覧いただいた皆さまからは、「山田真山先生の平和祈念像に対する情熱を感じた。」「山田真山という素晴らしい芸術家のことを知る良い機会になりました。」「真山先生の平和への深い思いや、強く、温かなお人柄を知る事ができました。彫刻や、絵画を始めて拝見しましたが、とても素晴らしかったです。」などのご感想があり、展示会が好評であったことを嬉しく思います。また、「当時普天間高校生だった私の通学路に真山先生のアトリエがあり、軽い気持ちで庭に入りアトリエを覗いていました。今はその事を誇りに思い友人たちにも話しています。」「中学の頃見学に行きました。あの頃の私には仏像の大きさに圧倒された覚えがあります。」など、祈念像原型制作当時のことを懐かしむ声も多く寄せられました。

☆講座の様子を Youtube でご観いただけます！！

◇展示の他に、関連事業として、市民講座（2回）を開催しました♪

7/31（日）「山田真山—その人物と作品—」 講師：小林 純子（沖縄県立芸術大学 教授） 22名
…真山さんの絵画・彫刻の特徴と、沖縄近代美術史における功績を解説してもらいました！

8/14（日）「山田真山との思い出」 講師：糸数 政次（浦添市美術館 館長） 23名
…真山さんとの祈念像制作の日々を振り返り、真山さんの人物像について解説してもらいました！



展示に協力いただいた皆さま、ご観覧いただいた皆さま、誠にありがとうございました！

こども博物館教室を開催しました！

こども博物館教室は、小学3年生から中学3年生までを対象に、夏休みの自由研究のきっかけ作りなどを目的として開催する市立博物館のイベントです。ここ2年間は、新型コロナウイルスの感染拡大により開催することができず、今年度は満を持して3回の講座を開催することができました。

コロナ禍での開催ではございましたが、合計41名の子どもたちにご参加をいただきました。ご参加をしてくださり、ありがとうございました！

第1回：8/5（金）葉脈標本をつくろう！！

博物館の敷地内や森川公園から葉っぱを取り、葉っぱの特徴を観察しました。その後、薬品を使って煮た葉っぱの葉肉を歯ブラシを使って取り除き、脱色や色付けなどをした後、ラミネートをして葉脈標本を作りました。



▲大きい葉っぱを探します！



▲葉肉を取るのがなかなか難しい！



▲脱色やアイロンで乾かせば…



▲完成！

第2回：8/17（水）ホタルちょうちんを作ろう！

沖縄のホタルの一生や宜野湾市内で見られるホタルの特徴、ホタルと人々との関わりを学び、身の回りの植物を使った、ホタルを入れて楽しむためのホタル提灯を糸ノコギリやドリルなどを使って作りました。



▲ホタルは種類によって光り方が違います！



▲糸ノコで固いテリハボクの実を切ります。



▲普段使わないドリルは怖いけど使えると楽しい！



▲完成したホタル提灯

第3回：8/22（月）葉っぱのおもちゃを作ろう！

アダンの特徴や昔の暮らしの中での使い方を学んだ後、葉っぱのおもちゃを難しさに合わせて3種類（かんたん：カタツムリ・エンゼルフィッシュ 難しい：指ハブ）を作りました。



▲同じアダンの葉でもトゲの有無があります。



▲教わりながら葉っぱを折ります。



▲指ハブはなかなか難しい…





ただ今、調査、真っ最中の『宜野湾市史』の別冊「教育編」。令和5年度の刊行にむけて、市内の小中学校内に残る資料調査や、元教員からの当時の学校や授業の様子を聞くなどの調査を進めています。

今回の「がちまやあ」では学校調査で得られた資料の一部を紹介と、皆さまへのお願いです。

PTAの前身、学事後援会に関する資料

今から75年前の資料だケロ！



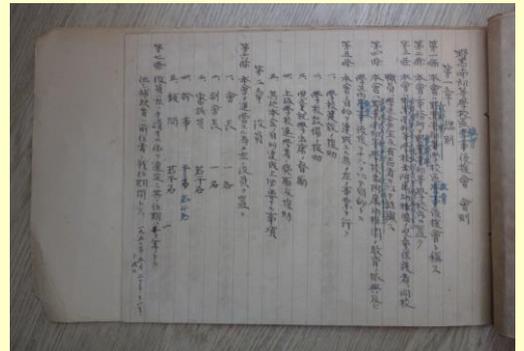
右の資料は「一九四七年度起 會則簿 學事後援會」の表紙で、本文は「野嵩南初等學校區學事教育後援會 會則」と題目が記されています。「學事」には文字消しがされていて「教育」と上書きされています。

内容は、第一章總則、第二章役員、第三章會議、第四章會計、第五章附則、全5章、第17条からなる会則です。第17条には「本会則ハ一九四七年五月三日ヨリ之ヲ施行ス」とあります。

1946（昭和21）年に開校した野嵩南初等学校は、現在の野嵩一区内の民家を利用し、後に愛知に移転し、宜野湾初等学校に校名が変わります。

この資料には、学事後援会が南初等学校や附属幼稚園の教育の振興および学区内の学事後援を成すことを目的に、保護者や同校職員、学区の各戸主および有志で以て構成されていました。そして主な事業には、学校建設の援助、学校設備の援助、児童就学出席の督励、上級学校進学者の奨励および援助などがありました。

沖縄戦から翌年には学校が再開され、1948（昭和23）年には6・3・3制が導入されました。児童も学校へ通う子もいれば、そうでない子もいるなか、教員や父兄にしても不安定な生活が続いていたであろう、この時期、学事後援会を通して、子ども達の学びの環境を整備する動きがあったのでした。ただし、実態については今後の調査が必要とされます。



資料提供のお願い！～児童生徒の頃の資料、ございませんか！～

市史編集事務局では、教育編の刊行にむけて、宜野湾市内の学校関係の資料を探しています。特に戦前から本土復帰頃で、例えば写真や通知表、校章のついた学帽、制服などです。これらは今と形式が異なっていたり、または廃止されているものもあり、当時の様子を表す貴重な資料です。この他の資料でも結構ですので、ご家庭に眠っている資料がございましたら、ご提供または借用のほど、宜しくお願い致します。

連絡先：市立博物館 / 098-870-9317



博物館学芸員実習を行いました！

当博物館では、8月8日(月)から22日(月)までの12日間で琉球大学や沖縄県立芸術大学、沖縄国際大学、北海道大学からの学生さん5人を受け入れて、博物館学芸員実習を行いました。

期間中は、わらば〜体験じゅく・こども博物館教室のサポートや寄贈資料の登録、植物説明板の作成や設置作業などを行いました。また、常設展示室の展示物を一部使用して、各自設定したテーマについての調査研究をもとに展示解説も行いました。このような実務体験を通じて、学芸員の仕事内容について理解が深まったようなので、実習で得た経験を今後活かして欲しいと思います。それでは、実習生から頂いた感想を一部紹介します。



【當山 愛梨 沖縄国際大学】 学芸員は通常の業務に加え、企画展、講座、イベントの企画・運営などを行うので、時間の使い方が大切なことが分かりました。また、調査研究の発表を通して展示の見せ方、伝え方の工夫をすることでよりよい展示づくりになり、印象に残りやすい展示になることを学びました。

【渡嘉敷 鈴奈 沖縄県立芸術大学】 すしがめの整理することのできる体験や、子どもたちと触れ合うことのできる機会を得ることができました。敷地内の事は、働いている方々の仕事で、仕事量の多さにとても驚きました。毎日、通常業務と調査研究を両立させているみなさんが凄いと感じる瞬間でもありました。

【高水 みのり 沖縄国際大学】 「実践」の言葉通り、業務と一緒に携わり企画を行ったりすることはとても緊張しましたが、回数を重ねるうちに、自分なりのやりがいや楽しさを見出すことが出来たと思います。市立博物館として、市民のみなさまへの活動に力を入れている様子を近くで感じられるよい機会でした。

【徳永 昂音 琉球大学】 博物館実習を通して学んだことは、学芸員の仕事をこなすには様々な知識と経験が必要ということだ。展示物の解説や調査研究といった頭脳労働から資料収集、棚や看板など備品の作成・修繕というような肉体労働まで幅広い業務をこなさなければならないと体感した。それと同時に、業務を効率的にこなすためには自身の知識・経験だけでなく、前任者や文献など多方面からの知識経験が必要だと考えた。

【阿部 暁之 北海道大学大学院】 実習を通して感じたことは、学芸員の皆さんが何事にも本気で、熱量を持って臨んでいるということです。そのため、様々なイベントはどれも完成度が高く、参加者の満足感を生み出していました。ぜひ博物館でイベントに参加して、その熱量や完成度を実際に体験してみてください。

宜野湾市立博物館 〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1

TEL : 870-9317 FAX : 870-9316

■入館料：無料

■開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■休館日：毎週火曜日、祝日、年末年始(文化の日、慰霊の日は開館)

